

平成 20 年度福島県教育旅行宿泊者数について

平成 21 年 10 月
(財)福島県観光物産交流協会
(TEL024-525-4024)

■平成 20 年度福島県教育旅行宿泊者数

- 平成 20 年度福島県教育旅行宿泊者数は前年度比 2.7%減の 727,275 人となった。
- この数値は、本県が「うつくしま産業プラン 21」で平成 20 年度の目標値としていた 721,000 人を突破するとともに、過去 2 番目となったものの、前年度を下回る結果となった。
- また、教育旅行実施学校数も過去 2 番目となる 7,863 校となったものの、対前年比 4%減と前年度を下回った。
- 今回のマイナス要因としては、①各自治体間による教育旅行誘致競争が激化していることや、②不況等の影響により比較的費用がかかるスキー林間学校やスキー研修が減少したことなどが考えられる。
- 一方、プラス要因としては、①夏期の勉強合宿やスポーツ合宿が増加していることや、②県内及び近隣県からの小学校修学旅行が増加しているなどが考えられる。
- 今回の調査で前年度を下回る結果となったが、県では引き続き、豊かな自然環境や歴史・文化等の素材を生かした教育旅行体験プログラムを紹介しながら、官民一体となり進めている首都圏や隣接県の小・中・高校への訪問や、最新データをもとにインターネットで配信する小・中・高、旅行代理店（現在登録件数 5,299 件）へのメールマガジン等の誘致活動を行うとともに、新たな教育旅行メニューを開発するなど、更なる教育旅行の誘致を図っていく。

■入込者数の状況

(1) 民間施設の状況

- 民間施設の宿泊者数は前年度より 23,376 人減少して 407,895 人となった。(前年度 431,271 人、対前年度比 94.6%) その内訳は、大学は増加したものの、小学校、中学校、高校で減少した。
 - 学校数については、107 校減少し 5,034 校となった。(前年度 5,141 校、対前年度比 97.9%) その内訳は、高校は増加したものの、小学校、中学校、大学で減少した。
- ※国（独立行政法人）及び地方自治体が設置しているものを公営施設とし、それ以外のものを民間施設に区分しています。

(2) 公営施設の状況

- 公営施設の宿泊者数は、前年度より 3,102 人増加して 319,380 人となった。(前年度 316,278 人、対前年度比 101.0%) その内訳は中学校が減少したものの、小学校、高校、大学が増加した。

- 学校数については、前年度より 223 校減少し学校数は 2,829 校で平成 14 年以降公営施設を調査以来最低となった。(前年度 3,052 校、対前年度比 92.7%) その内訳は小学校で増加したものの、中学校、高校、大学で減少となった。

(3) 学齢別の状況

【学齢別前年比較表】

宿泊者数 (人)

	年度	合計
小学校	20 年度	247,303
	19 年度	240,853
	前年比	102.7%
中学校	20 年度	242,096
	19 年度	279,630
	前年比	86.6%
高校	20 年度	164,343
	19 年度	165,540
	前年比	99.3%
大学	20 年度	73,533
	19 年度	61,526
	前年比	119.5%
合計	20 年度	727,275
	19 年度	747,549
	前年比	97.3%

学校数 (校)

	年度	合計
小学校	20 年度	2,823
	19 年度	2,705
	前年比	104.4%
中学校	20 年度	1,717
	19 年度	1,901
	前年比	90.3%
高校	20 年度	2,345
	19 年度	2,318
	前年比	101.2%
大学	20 年度	978
	19 年度	1,269
	前年比	77.1%
合計	20 年度	7,863
	19 年度	8,193
	前年比	96.0%

- 小学校は、宿泊者・学校数ともに増加し、宿泊者数は 6,450 人増加して 247,303 人、学校数は 118 校増加して 2,823 校となった。これは、少子化の影響により学校の小型化が進むものの、2 学期制の導入に伴い、修学旅行がこれまでの 1 泊 2 日から 2 泊 3 日で実施する学校が増えたことが考えられる。
- 中学校は、宿泊者・学校数ともに減少し、宿泊者数は 37,534 人減少して 242,096 人、学校数は 184 校減少して 1,717 校となった。これは北関東地方の減少幅が大きく、不況等の影響により、比較的保護者負担が大きいスキー林間学校やスキー研修等が減少したものと考えられる。
- 高校は、宿泊者・学校数ともにほぼ横ばいで推移し、宿泊者数は 1,197 人減少して 164,343 人、学校数は 27 校増加して 2,345 校となった。これは、夏期の高校の勉強合宿やスポーツ合宿が増加した一方、冬期間のスキー林間学校やスキー研修が減少したものと考えられる。
- 大学は、宿泊者数は 12,007 人増加して 73,533 人と増加したが、学校数は 291 校減少し、978 校となった。これは経済不況下において、首都圏からアクセスが良く設備の整った本県が選好されたため、4 月のオリエンテーション、スポーツ合宿やゼミ合宿が増加したものと考えられる。

(4) 月別の状況

- 月別宿泊者数は、夏期（6月～8月）と冬期（1月～2月）の割合が高い。夏期は小中学校の修学旅行や林間学校、勉強合宿やスポーツ合宿が多く開催され、冬期は中学生のスキー林間学校、スキー研修が開催されているものと考えられる。

(5) 都道府県別の状況

- 都道府県別宿泊者数は、全宿泊者数に対する本県宿泊者数は 178,046 人と全体の約 25%を占めているが、前年度より 5,385 人減少した。これは、小学校、高校、大学の教育旅行が増えたものの、中学校の教育旅行が減少したものと考えられる。
- 関東地方（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県）の宿泊者数は、全宿泊者数の約 60%を占めているが、前年度より 16,942 人減少した。これは、高校生の勉強合宿、大学のゼミやスポーツ合宿が増加したものの、関東4県（千葉、埼玉、茨城、栃木）のスキー林間学校、スキー研修が減少したものと考えられる。
- その他、宮城県の宿泊者数が 9,724 人増加して 50,612 人となったが、教育旅行誘致キャラバンによる訪問活動が実を結び、小学校の修学旅行が大幅に増えたものと考えられる。

■調査方法：アンケート方式

- 調査対象：県内民間宿泊施設（845 施設）、公営施設（36 施設）へアンケートを送付し、回答があったものを集計（回答：民間施設 181 施設、公営施設 29 施設）
- 調査対象期間：平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの 1 年間
- 調査内容：教育旅行（修学旅行、林間学校、臨海学校、スポーツ合宿、クラブ合宿、オリエンテーション等で学校などが主催した旅行）を目的に県内に宿泊した小学校から大学生までの人数及び学校数
- 実施主体：財団法人福島県観光物産交流協会